

# 大阪大学工業会海外交流助成金 平成30年度上期「渡航報告」

〔学生の部〕

## 海外渡航報告書

大阪大学大学院工学研究科 知能・機能創成工学専攻 平田研究室  
博士後期課程3年 小原 章

参加会議：XXIII<sup>th</sup> International Conference on Electrical Machines (ICEM 2018)

開催場所：Alexandroupoli, Greece

開催期間：Sep. 1- Sep. 9, 2018

ICEM 2018は、西ヨーロッパで隔年開催されるモータなどに関する学会で、今回はギリシャのアレクサンドロポリスが開催地であった。私は博士前期課程から平田研究室に所属しており、国際学会へは本発表で5回目の参加となった。今回はポスター発表に1件割り当てられた。

開空からの出発は台風21号の影響が心配されたが、日本上陸前に出発できたのは幸いであった。

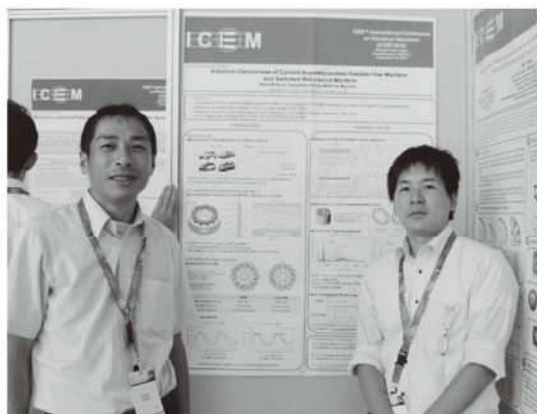
開催地であるギリシャ・アレクサンドロポリスへの移動には、セサロニキからバスを利用した。バスでの移動中にはギリシャ特有の街並みや地形・植生を観察することができ、地中海性の気候を感じた。事前の調査では、開催地のアレクサンドロポリスはリゾート地としては有名であるが、観光には期待できないとのことであった。その上、ホテルのオーナーに「観光名所は一切ない」と念を押されるほどであったが、実際に町に出てみると嘘偽りではないことがはっきりと実感できた。その反面、町にはたくさんのレストランが軒を連ねており、滞在中はギリシャ料理を心行くまで堪能することができた。

会場では、モータ関係の主要な国際学会ということもあり、かなり多くの人に参加しているようだった。会期は9月3日～6日となっており、私の発表

は4日に割り当てられていた。本番では、在学中最後の発表ということで、これまで以上に気を引き締めて臨んだ甲斐もあり、しっかりと研究内容を伝えることが出来たと思う。しかし、聴講者からの質問では、自身の専門分野外のことを聞かれることもあり、知識・経験不足を痛感する面もあった。発表以外の時間は他機関の発表を聴講し、研究動向を調査した。国内ではあまり見られないような研究分野もあり、非常に刺激的であった。

英会話能力の未熟さを感じたのは、意外にも学会以外の場面であった。今回の渡航中に会ったギリシャ人の多くは流暢に英語を話し、タクシーや土産屋などでは英語で会話する機会があった。その際に私は内容を断片的にしか理解することができず、もどかしく感じるが多かった。また、こちらから何かを伝えたいときにうまく表現できないと、さらに満ち足りない気分になった。研究室での5年間で、発表能力に関してはある程度上達した自覚があったが、日常会話などの非限定的な場面での能力不足を強く実感した。実社会においては、英語で発表することよりもコミュニケーション能力が重視されると思うので、今後は柔軟な対応力を身に付けていきたいと思った。

最後に、今回の渡航費を補助してくださった大阪大学工業会に感謝の意を表します。



発表の様子(左：新口助教 右：私)



ガレリウスの凱旋門とロトンダ